

中部地方整備局 道路脱炭素化推進計画

中部の原動力は地域連携～ものづくりの知恵と、みちづくりの技術で進める道路脱炭素～

- 道路法等の改正（R7.4公布、施行）により、国の道路脱炭素化基本方針に基づき、道路管理者が道路脱炭素化推進計画を策定する枠組みを導入。
- 中部地方整備局では、産業を支える企業や地域と連携し、脱炭素に資する取り組みを推進する計画を策定。

中部地整 道路脱炭素化推進計画の目標

■ 道路管理分野の目標

- 道路照明のLED化と道路関係車両の電動車化は2030年度までに100%、再生可能エネルギー活用電力利用割合は2030年度までに60%、2040年度までに80%を目指します。
- 道路管理分野全体におけるCO2の排出削減目標は、2030年度に約8割削減、2040年度までに約9割削減を目指します。

■ 道路整備分野、道路利用分野の目標

- 道路の脱炭素化に貢献するため、CO2排出削減に資する取り組みを積極的に推進します。

■ 道路管理分野のCO2削減目標

約48千t



道路関係車両の電動車化
道路照明のLED化
再エネ活用(電力調達割合)

中部の脱炭素化に向けた施策内容

■ 道路管理分野

- 道路関係車両の電動車化
- 道路照明のLED化
- 道路管理における再生エネルギー活用
- 道路空間への太陽光発電施設の導入

■ 道路整備分野

- 低炭素建設機械の導入促進
- 低炭素アスファルト/低炭素型コンクリートの導入促進
- 予防保全による長寿命化の推進
- 道路緑化

■ 道路利用分野

- SA・PAや道の駅でのEV急速充電の設置促進
- 自動車の廃バッテリーを活用した道路付属施設
- 自転車利用促進
- 歩行空間の整備
- モビリティハブ等の交通結節点の整備
- ダブル連結トラックの利用環境の整備
- 主要渋滞箇所における渋滞対策
- TDMの実施
- 立体交差化や踏切等迂回路整備等の推進
- 路上工事の縮減による交通渋滞の緩和

■ その他の取り組み

- 脱炭素化施設等の設置
- 道路協力団体との連携
- 日本風景街道との連携
- ネイチャーポジティブ政策の推進
- サーキュラーエコノミー政策の推進

地域との連携 取り組み事例

■「道の駅」で自動車の使用済みバッテリーの再利用

- 「道の駅」にて地元の企業と連携し、使用済みの自動車バッテリーを蓄電池として再利用する実証実験を道の駅で実施します。
- 災害時などに停電した際にも、避難所等としての機能が確保できるような施設を整備します。
- 将来的には、商用電源に頼らない「ゼロ・エミッション道の駅」を目指します。



■自転車の利用促進

- 安全で快適な自転車通行空間の整備を推進することで、自動車利用から自転車利用の転換を図ります。
- 名古屋市内をモデル地区として設定し、自転車の実走行実験を実施しました。車体に取り付けたデータや被験者からのアンケート調査などから、自転車の走りやすい道路を可視化させ、「走りやすさマップ」を作成し、一般向けに提供を目指します。



◆アウトプットイメージ（走りやすさのマップ）



■TDM（交通需要マネジメント）の実施

- 通勤手段の変更、通勤時間帯の変更、在宅ワークの活用など、地域の企業と連携し通勤時間帯の渋滞緩和を目指します。
- 観光客が多い市街地部では、慢性的な渋滞が発生しています。市街地部を通過する車両を迂回ルートに転換することで渋滞緩和を目指します。



■ネイチャーポジティブ

- 道路の未利用地（岐阜県高山市内のインターチェンジ）に動植物の生育環境を守るため、ビオトープを設置しました。
- 近隣の高校と協定を締結し、学生と共に環境創生に取り組んでいます。
- 道路と自然の共存を目指すため、天然記念物のニホンカモシカの生息域などに、ドライバーへの注意喚起対策としてカーナビでお知らせするシステムの運用を検討します。



生物の調査

この先、動物の飛び出しが多い場所です。速度を落とすなど、注意して走行してください。



※画像はイメージです